

支援部だより

堺市立上神谷支援学校
支援部だより
2020.10.16 発行
No.2

堺市では、支援学校センター的機能の一環として、児童生徒のニーズに応じた支援・指導の充実のために、「外部専門家派遣」（昨年度までは「自立活動アドバイザー派遣」）の名称で外部専門家（ST・OT等）との連携を行っています。支援部だより No.2では、具体的にこういったアドバイスを受け、どのように取り組んでいったのかをご紹介します。今回は言語聴覚士への相談事例から「構音についての相談」、作業療法士への相談事例から「箸の使い方について」を紹介します。

相談内容 言語聴覚士(ST)



構音についての相談

ラ行・ナ行がダ行になり、マ行がバ行に似た音になるため、どのように指導したらよいか。

検査より

○構音検査より

ラッパ→ダッパ、れいぞうこ→でーぞーこ、テレビ→テービ となる

- ・ラ行は、舌を口内ではじいて出す音である。はじけていないため、ラ行がダ行になっている。

○アドバイス

- ・単音節→単語→文 の順で練習していく。

○単音節の指導（ラ行の中で「ら」が発音しやすい）

- ◆「ら」と「ら」以外の発音の違いを聞き取る。

らといたら、○のカードを指す。「ら」以外をいたら×のカードを出すなど

- ◆「ら」の発音を練習する

「ら」とはじくように言わせる。

手で口の天井と舌をつくり、はじかせる動きを見せることでイメージが付きやすい。

☆（参考写真）



○単語の指導（語頭・語中・語尾に入るように練習をする）

- ◆意味のある単語ではなく、意味のない単語（無意味語）で発音させる。

「ら行」が発音しやすいので、「らま」から始めていく。

【語頭・・・らま】【語中・・・まらま】【語尾・・・まら】

「らまらま」などでもよい。

- ◆無意味語「ら」の発音が正しくできるようになったら、同じように意味のある単語に取り組む。

※できてきたら、シールなどで楽しく続けていけるとよい。

（例）【語頭・・・らくだ】【語尾・・・あらし】【語尾・・・まくら】

※構音指導については、楽しく継続的に続けていくことが大切である。本人が話したいときには、訂正も入れずにすべて聞く時間も作るようにする。

※本人はほめてもらう機会や経験が少ないため、しっかりとほめていき、もっと話がしたいと思えるようになるとうい。

～実践後の様子～

- ・下校前に発音の練習を行っています。現在は、意味のない単語で語頭・語中・語尾に「う行」をつけて発音する練習を行っています。「ラ・ル・レ・ロ」はスムーズに言えるようになってきています。次は意味のある単語で練習を行っていきます。
- ・教えていただいた内容で発音の練習をはじめたところ、家庭でも「聞き取りやすくなった」と保護者の方から言っていました。

相談内容 作業療法士(OT)


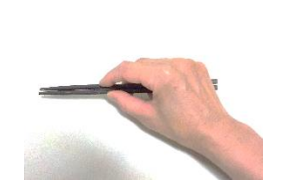


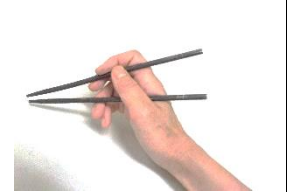
～箸の使い方について～



実態

- ・右手で箸を使用。左手で取り、右手に持たせる。
- ・人差し指が伸びていることが多く、箸を持つことはできているが、開閉は困難。
- ・左手で器を持ち、右手の箸で流し込むように食べている。
- ・パンを食べる時やちぎる時、中指と親指でつまむことが多かった。ときどき人差し指と親指でつまんだ。
- ・手の機能として第3段階にあり、「側方つまみ」である。そのため箸の操作に難しさがある。

☆ (参考)「握る」の発達段階

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
手掌回外握り・ 手掌回内握り	手指回内握り	側方つまみ	静的三指握り	動的三指握り
				

・「握る」ことには発達段階があり、各段階を十分に経験することで次に進むことができる。発達段階を無視して、最初から大人のするような、成熟した握り方、持ち方を指導された子どもは、そこに至るまでに必要な基礎的な力の発達の機会を奪うことになる。手指の基礎力が育たないまま形だけまねをさせることになるので、結果的にうまく握れなくなる。

《参考文献 発達が気になる子への スモールステップではじめる 生活動作の教え方 P30～

中央法規》

アドバイス

- 割り箸で食べる。食事前半は食べる意欲を削がないように本人の食べ方で食べる。後半はつまみやすい食材で箸でつまんで食べる練習をする。
- 食事場面以外で手を使う活動を取り入れることで、第3段階から第4段階への発達を促す。

活動例1：洗濯バサミ（つまみ）

- ①本人の手指の力に応じた、弱い力でもつまめるものを使用する。
- ②はさず活動ではなく、つける課題を行う。
 - ①②どちらの活動も何が正解なのかを明確にする。

活動例2：親指と人差し指でつまむ課題

- 小さなものをつまんでペットボトルなど入口の小さいものの中に入れる。
- 中指でつままないように、
 - ①本人がつまもうと手を出す時に中指を折るように補助する。（手の動きの妨げにならないように注意）
 - ②中指、薬指、小指で何かを持ちながら作業する。

(①参考)



(②参考)



★実践したこと

食事前半は本人の食べ方で食べ、後半はつかみやすい食材を割り箸でつまんで食べる練習をした。学習場面でも洗濯バサミの課題に取り組み、台紙に色を塗って（写真）おき、はさむ場所をわかりやすくしている。

☆（参考）



洗濯バサミ 課題 のキーワードで検索すると参考になるいろんな課題が出てきます。
児童の興味・関心に合った課題が見つかりますよ！

★結果・小考察

- 食事場面ではつまんで食べることは慣れてきている。支援を受けながら、丸めたご飯・食材などをつまんで食べている。はさむ意識が芽生えてきているので、継続して行っていく。
- 洗濯バサミの課題は両手を使ってせんたくばさみを持ち替えようとする場面が見られた。また台紙を左手に持たせ、右手ではさむようにしている。中指を使うことがあるので様子を見ながら支援をしている。

* 今できる実践をたくさんアドバイスいただけると幸いです。ぜひご活用ください。

* 参考文献の貸し出しも可能ですので、お問い合わせください。